第６回「平成12年」通常総会
TDA・ミレニアム2000記念シンポジウム

ミレニアム2000年。記念企画としてテキスタイルの明日を語るシンポジウムが開催された。業界の第一線で活躍中のマネージャー及びデザイナーによる「基調講演」と「パネルディスカッション」の２部構成である。厳しい環境下ではあるが、21世紀を目前にグローバルな視点で今後の動向を予測し、問題点を提起し、業界の活性化を目的とした意義深い内容となった。

■基調講演

◎テーマ…インテリア／「これからのインテリアビジネスとデザイナーの取り組み」
◎講　師…大森克夫　(株)インテリア・リド代表

大森氏は、長年インテリア業界で商品の企画、開発に携わってこられました。その経験にもとずいた貴重なお話を、今回お聞きすることが出来ました。「戦後のインテリア業界の流れ」では、昭和20年代の後半から40年頃までは、特に京都を中心とした老舗のメーカーが主導、昭和30年後半から問屋が自社のオリジナル商品を、尾州、三河地区、両毛産地で生産、ブランドを確立、生産問屋として大きな力をもつようになり、デザイナーも、ブランドメーカーで多く活動するようになりました。その後いくたの変遷はありましたが、現在消費者主導型といわれるように、流通も大きく変化、量販店、ホームセンター、住宅メーカー、……など、専門店を含めてのきびしい競争の谷間で海外商品の輸入の増大など、デザイナーは川上（生産メーカー）だけでなく、川下に立っての企画、参加が要求されている。商品の企画決定がどこのポジションで行なわれているかを、デザイナーは考える必要があるなどデザイナーの在り方、存在を改めて考えさせられる講演であった。

■基調講演

◎テーマ…アパレル／「アパレルとして生き残るには」
◎講　師…中川清隆　赤川英(株)　取締役部長

中川氏は、個性的な中堅アパレルメーカーに35年間勤務なされ、現在も第一線で陣頭指揮をとっておられます。今回のテーマである「アパレルとして生き残るには」は、大変厳しい時代に生き残りをかけた企業の様子が生々しく、時にはユーモアも交えながら解り易くお話して下さいました。

○生き残りの条件として…

情報を得るのが一番。情報を得るには、嗅覚をもて。これからは女性の時代である。男がモノをつくっているのではダメ。長年の経験だけのモノづくりは失敗する。若い感性が必要。40才以上は無理。ヤングファッションの具体例として、渋谷109・ＳＰＡの動向など。

以上、これらは中川氏の言葉ですが…大変厳しいように思われますが、お話にはユーモアがあり人間味溢れる楽しく、解り易い講演でした。

交流パーティー

通常総会・シンポジウム終了後、会場を大阪化学繊維会館１階に席を移して、鈴木洋行理事の司会進行で懇親会パーティーとなりました。上野理事長の挨拶に始まり、シンポジウムでお世話になりました中川さん・滝口さん・朝比奈さん・コーディネーターをつとめられた近沢さん、そして大御所の大森さんお疲れ様でした。総会も無事終了し、久しぶりに逢う会員は終始和やかな歓談され、盛況のうちに会は終了致しました。パーティーには、シンポジウムに参加しました学生も加わり、テキスタイル業界の諸先輩のお話を熱心に聞き入りました。協会も６期目に入り、東京事務局開設準備・役員選挙等、色々問題はありますが、将来に向けて大きな輪になる様な協会を目指すためにも、会員皆様の更なる御協力をお願い致します。

（リポート　今野 文雄）